

ジャマイカ便り

第 22 号(最終号)8 月

2024 年度 青年海外協力隊 馬淵 萌子 青少年活動

ワグワーン！（調子はどう？）岐阜県のみなさん、こんにちは。JICA 青年海外協力隊 2024 年度 1 次隊、青少年活動で中南米のジャマイカに派遣中の馬淵萌子(まぶち もえこ)です。いよいよ今回で「ジャマイカ便り」も最終号となりました。2年間にわたりご愛読いただいた皆様、本当にありがとうございました。これまで毎月、計 22 号を作成してきました。「ジャマイカ便り」は、私にとって日記のような存在でもあり、毎月活動や生活を振り返りながら、大切な思い出を残すことができました。また、いろいろな方から「ジャマイカ便り、毎号楽しみにしているよ」と声をかけていただくことがあり、そのたびにとても嬉しく感じていました。最終号の今回は、ジャマイカでの2年間の生活を振り返りと、最後にみなさんへのメッセージも書いてみました。

この2年間の振り返ると、毎日が刺激に満ち、新しい発見と経験の連続でした。ジャマイカは日本と同じ島国ですが、歴史的な背景もあってか国民の母国愛がとても強く、価値観や文化も大きく異なる国だと感じました。とはいえ、私にとって海外で暮らすのは初めてだったため、比較できる国はなく、その一つひとつが新鮮な経験でした。多くの方に読んでいただく「ジャマイカ便り」では、あまりマイナスなことは書かないよう心がけていました。しかし実は、赴任当初はどうしても日本と比較してしまい、日本では当たり前に行っていたことが思うようにいかず、戸惑うことも少なくありませんでした。好きなものを食べることに、行きたい場所へ行くこと、会いたい人に会うこと。日本では当たり前だと思っていたことが、決して当たり前ではないと気づかされる場面も多くありました。しかし、生活を重ねるにつれて、物事の背景を理解しようとする力や、状況に応じて柔軟に対応する力、そして限られた環境の中でも楽しみを見つける力が自然と身についていきました。以前は課題やストレスだと思っていたことも、今では自分を成長させてくれた大切な経験だったと思えるようになりました。また、訓練所生活も含めてこれまで本当に多くの人との出会いに恵まれました。年齢や出身、国籍もさまざまで、最初は共通点を見つけるのが難しいと感じることもありましたが、一人ひとりとの出会いを通して新しい価値観や文化に触れ、自分自身の視野が大きく広がったことを実感しています。もちろん、価値観や文化の違いに戸惑ったり、壁を感じたりすることもありました。また、ジャマイカの人たちと意見がぶつかり、落ち込んだり、言い合いになったりしたこともたくさんありました。それでも振り返ってみると、最後にはいつもジャマイカの人たちが励まし、支え、そばにいてくれました。そんな人とのつながりに何度も救われた2年間だったと感じています。今では、その違いこそが海外で暮らすこと、そして協力隊生活ならではの魅力だったと思えるようになりました。違いを受け入れ、その中で楽しみを見つけながら前に進む力を身につけることができたことは、この2年間で得た何より大きな財産です。この2年間のジャマイカでの経験は、楽しいことも大変だったことも含めて、すべてが今の私をつくるかけがえのない財産です。ここで出会った皆さんへの感謝の気持ちを忘れず、この経験をこれからの人生にも生かしていきたいと思っています。これまで関わってくださったすべての皆様に、心から感謝しています。

ーみなさんへのメッセージー

最後に、みなさんにジャマイカ出身のレジェンド、ボブ・マーリーが遺した言葉を紹介したいと思います。彼の名言の中で最も有名なのは、“*Love the life you live, live the life you love.* (自分の生きる人生を愛せ。自分の愛する人生を生きろ)”という言葉で、すでにご存じの方も多いと思います。しかし、彼が遺した数々の言葉の中で、私が他に好きなものがもうひとつあります。

Some people feel the rain. Others just get wet.

「雨を感じられる人間もいるし、ただ濡れるだけの奴らもいる」

ただ不満を口にするだけで終わってしまえば、それは単なるマイナスの出来事でしかありません。けれど、そこから何かしらの学びを得ることができれば、それはプラスの出来事へと変わっていく、そんなことを表している言葉です。貧困や差別の克服、そしてレゲエの普及など、波瀾万丈な人生を歩んだボブ・マーリーだからこそ語ることができた、重みのあるメッセージだと思います。私自身も、この言葉のように「どんなにネガティブなことにも、必ずポジティブな面がある」という思いを大切にしながら、この2年間の活動に取り組んできました。今、つらい時期を過ごしている方や、新たな挑戦を始めようとしている方、すべての方の背中をそっと押す言葉になれば嬉しく思います。そして、私の「ジャマイカ便り」を通じて、少しでも世界の現状に目を向け、「当たり前」だと思っていたことが、実はそうではなかったと気づくことができたのなら、目の前の小さな幸せに改めて気づくきっかけになれたのなら、こんなにも嬉しいことはありません。全てみなさんに心から Big up (ありがとう)!



2 年前(2024 年 8 月ジャマイカ到着日)